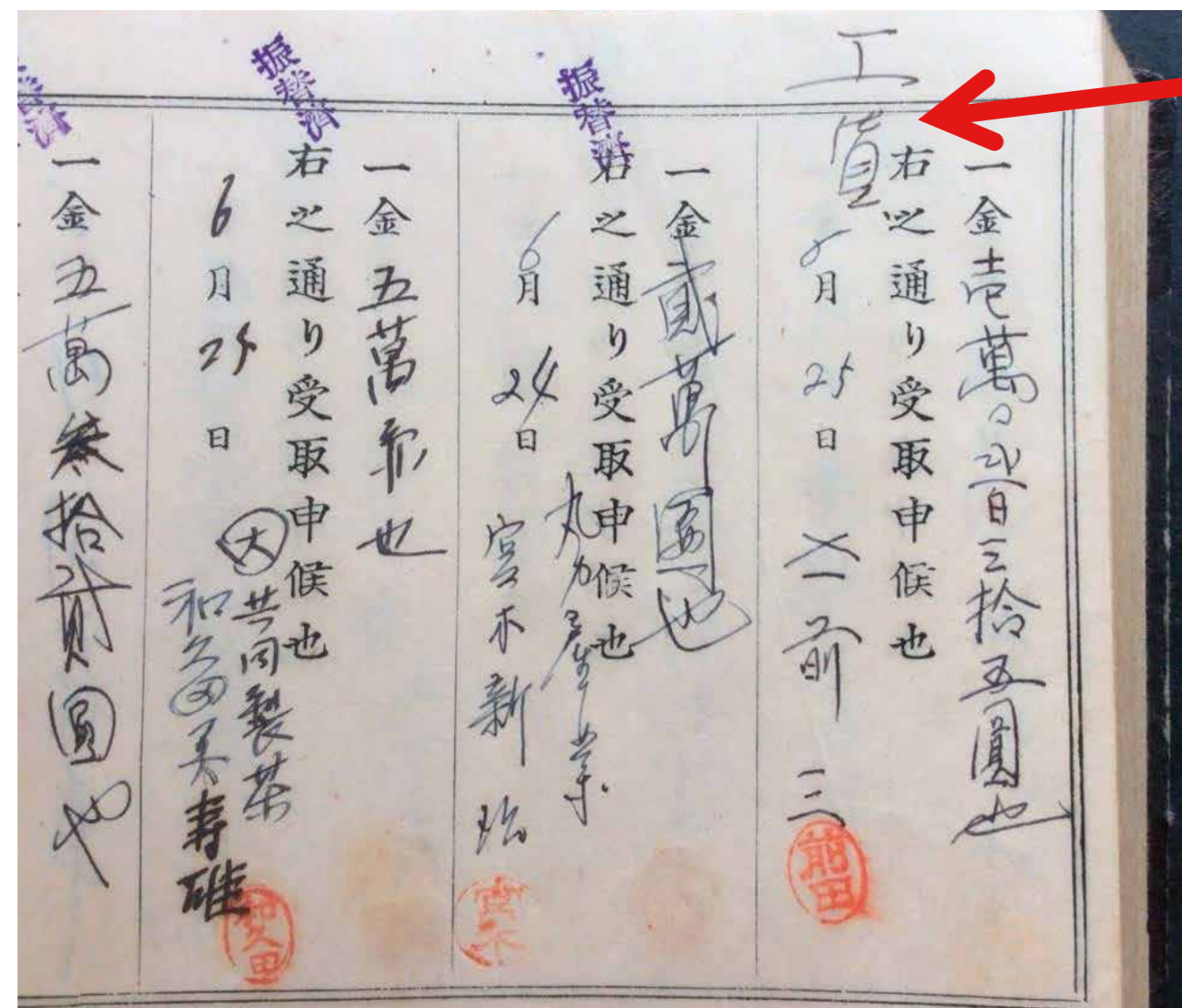


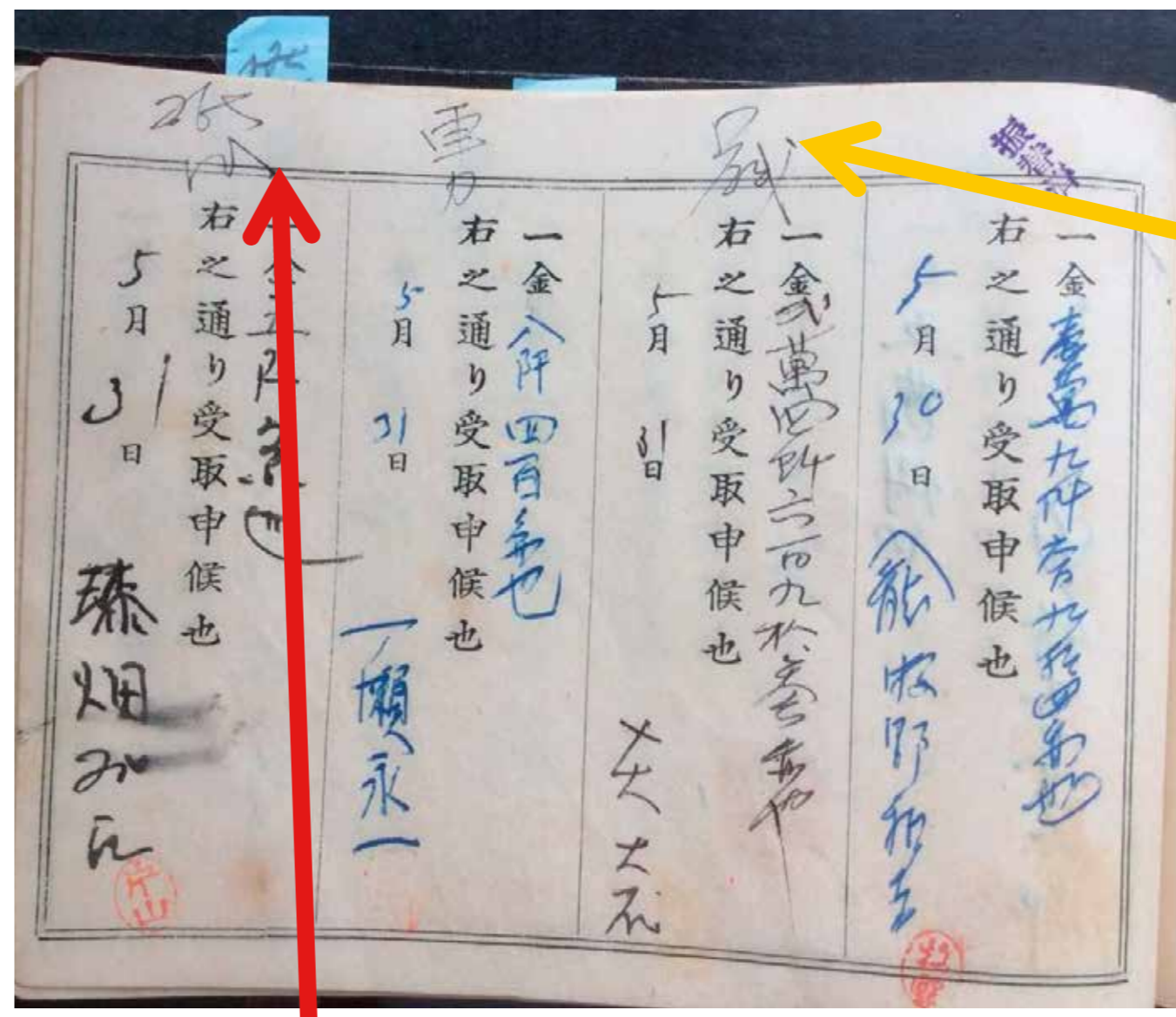


# 金銭判取帳が語る茶取引、関連業者のこと



**工賃:**  
 荒茶の再製加工または、焙じ茶の加工費。加工設備を持たない問屋は、原料の荒茶を持ち込み再製屋に加工してもらった。

前三商店(再製屋),現在  
 は閉店している。  
 当時:静岡市安西5-25に  
 あった。店主は前田三吉。



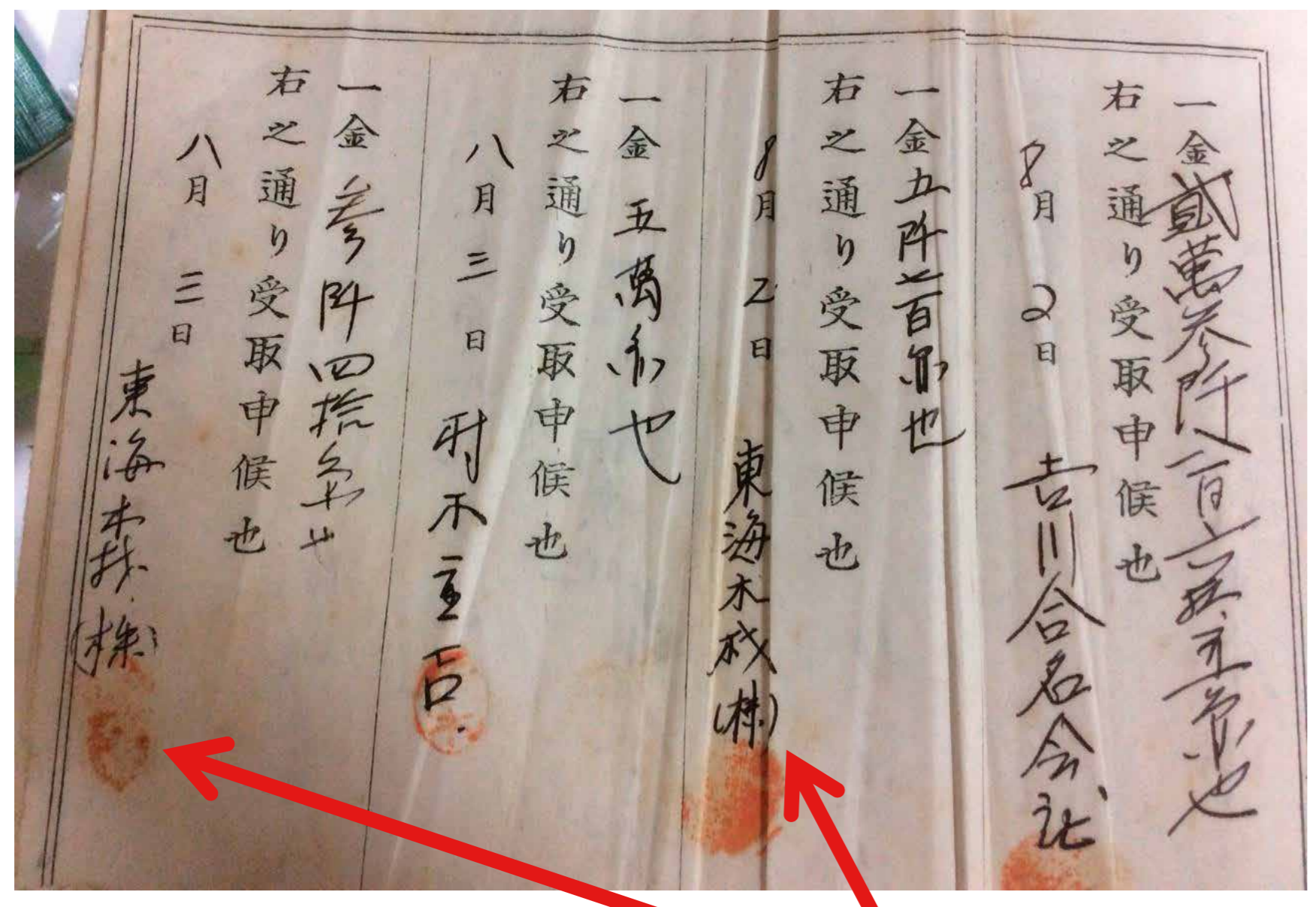
**口銭:**  
 斡旋業者の手数料  
 生産者が払うのではなく、  
 茶商が生産者より控除  
 して(預かって)、払った。

## 市内茶商の店名,屋号,呼称

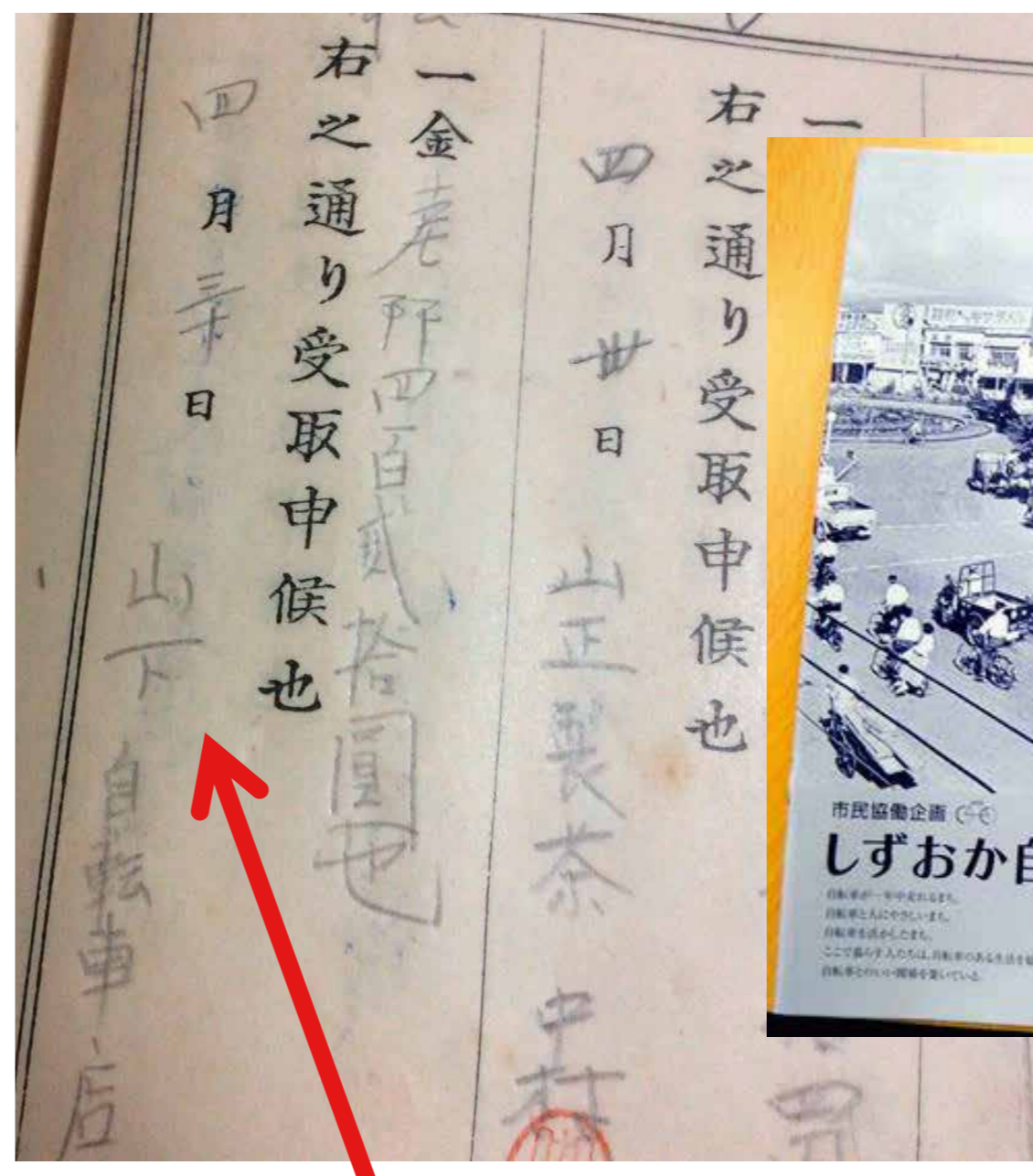
例えば、前田姓の茶商店は複数あった。  
 屋号が同じ「やまいち」でも前田金三郎商店(土太夫町27)は前金、  
 前田六之助商店(葵町40)は前六。  
 屋号が「かねか」の前田幸平商店(錦町23)は、前幸と呼ばれた。  
 その呼称が後に店名・社名になった。  
 (茶業名鑑1949年による)

## 紙代:

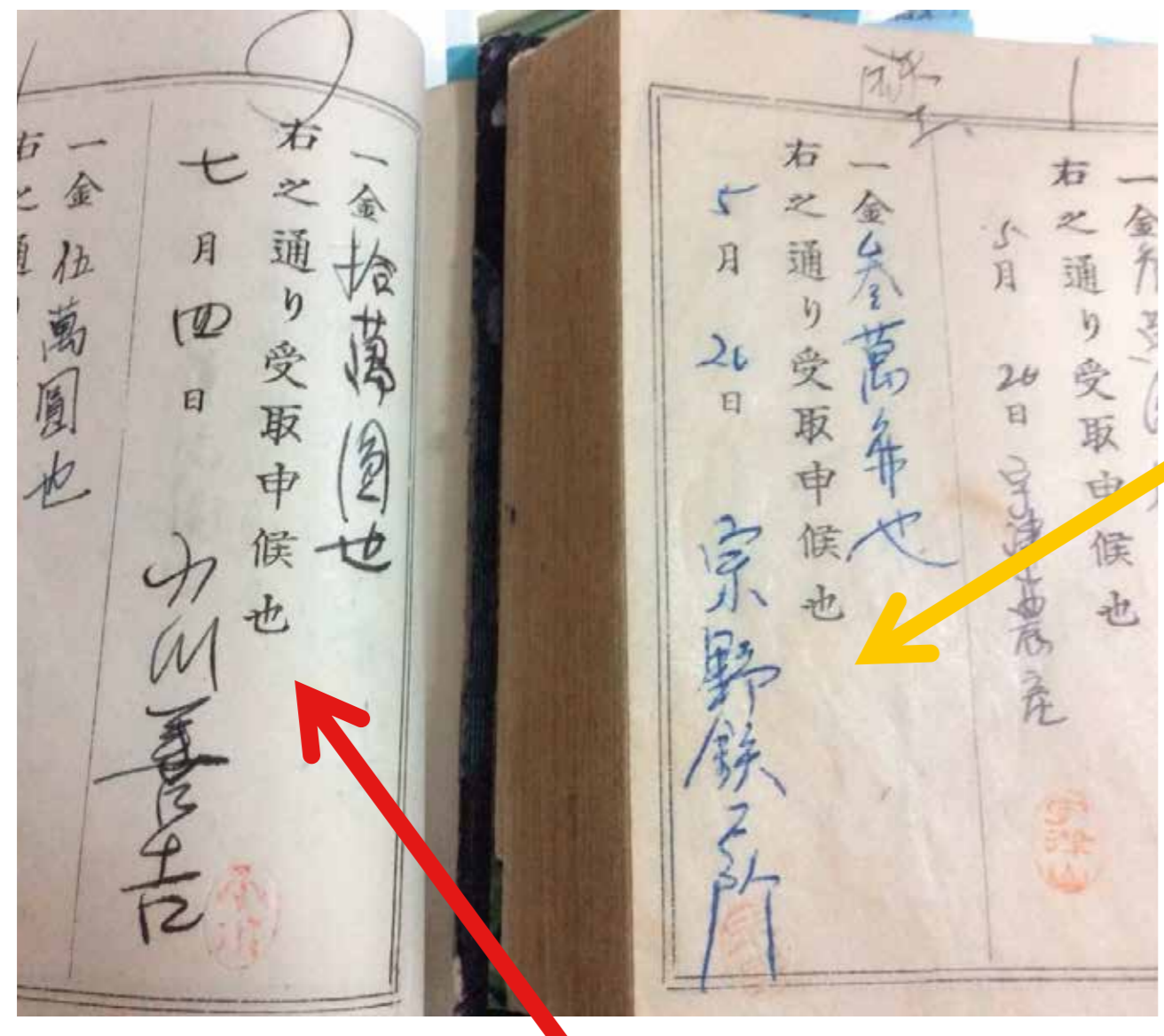
茶箱の目貼り,蓋を開けた時に茶がこぼれないように内側に巻く紙,茶箱のレッテル(ラベル)などを購入した。  
 現・(株)漆畑紙店:静岡市葵区千代2丁目



**冷蔵倉庫での保管料:**  
 窒素充填や真空パックが無かった時代、長期の品質保持には冷蔵倉庫での保管が必要だった。  
 静岡茶商工業(協)の冷蔵倉庫が業務開始したのは1953年頃。  
 それまでは  
 東海木材(株):現住所:静岡市駿河区富士見台3丁目1-78 に依頼。



**自転車 購入または修理**  
 自転車といえば、斡旋業者の乗り物をイメージしてしまうが、茶問屋が茶箱数個を地方へ出荷する場合、自転車にリヤカーをつけた運搬具で静岡駅まで持って行った。原付やオート三輪がまだ普及してはなかった時代、斡旋業者だけでなく茶問屋にとっても、自転車は重要な乗り物だった。  
 山下自転車店(現・山下商会 茶町二丁目)

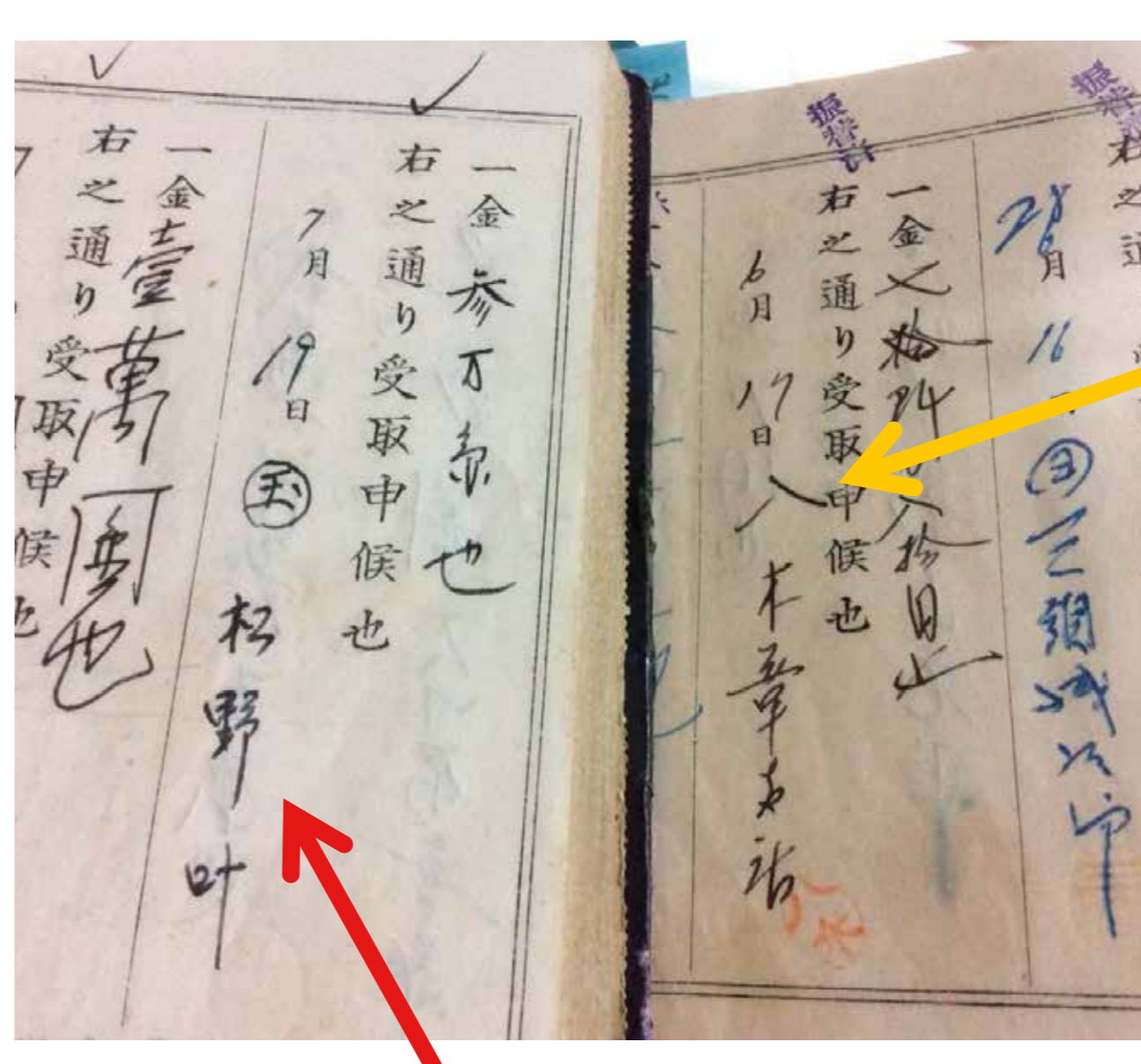


**仕上機械の修理代:**  
 (突き篩,廻し篩)  
 主に、篩に使われている金網の張替。



突き篩

**茶箱製造業者と茶箱:**  
 地方の茶店へは、茶を木箱に入れて出荷していた。茶町北側の材木町や若松町には製箱業者が何軒あった。"レッテル"と呼んでいた「ラベル」(茶壺や茶花が描かれ、蘭字に比べると少々地味)を側面に貼り、その上に「入日記」という明細票(出荷先店名,荷印,茶の正味キロ数表示)を貼って出荷した。



**玄米業者:**  
 藤枝市には、八木章商店(現・ヤギショー)と八木音商店の2店があった。(両店とも継続営業中)玄米は玄米原料(茶)と合組して、「玄米茶」という商品を作り、地方に発送した。

**玉露** 戦後間もなくの頃は、玉露の入手は非常に困難であったため、取引先から注文が入ると地縁血縁者を頼った。当店では、祖母の弟(旧岡部町玉取)が仲買商をしていたので、そこから入手した。

ヤギショー  
 1949年:全国穀類工業協同組合結成に伴い加入。  
 1951年:加工原料米割当制に依り玄米茶の素、麦茶の製造を再開全国茶問屋を主力取引先として全国に普及する。  
<http://www.yagisho.co.jp/company/history/>